學習格助詞的幾個重要基本概念

- ①句子的核心在動詞,通常由一個動詞和若干名詞組成。
- ②每個名詞與動詞之間都有一定的語意邏輯關係。
- ③名詞與動詞之間存在的語意邏輯關係叫「格關係」。
- ④表現名詞與動詞之間的「格關係」就是格助詞的主要功能。
- ⑤一個句子好比一齣戲,動詞就是戲中的主角,名詞則是搭配動詞演出的配角。格助詞就是用來區別不同的配角。



①中文用語順來表現名詞與動詞之間的格關係

狗 咬 人 → 動詞前面的名詞為動作主格,動詞後面的名詞為受格 → ↓ 動作主格 動作受格

人 咬 狗 → 順序改變名詞與動詞之間的格關係也改變
↓ ↓
動作主格 動作受格

②日文用格助詞來表現名詞與動詞之間的格關係

掌握動詞的語意才能掌握格助詞

老師罵學生 → 先生が 生徒を 叱った

老師見學生 → 先生が生徒に会った

中文「學生」都放在動詞的後面, 両者没有任何外觀的差別。

日文則因動詞的語意不同,與「生徒」之間的關係也不一樣

生徒を 叱った → 動作的直接作用的對象 を ——

生徒に 会った → 動作的目標方向 に __

「が」的用法與問題點

が: ①表動作、現象、存在的主体, 動詞・形容詞至少有個主体, 即是「が」

例:雨が降る 花が咲く 空が青い 本がある 先生が教える

②表好悪、欲望、害怕、羡慕等形容詞屬性的主体

例:魚が好きだ 肉が嫌いだ 絵が上手だ 歌が下手だ 数学が苦手だ 理科が得意だ 車がほしい 刺身が食べたい 彼が羨ましい 故郷が恋しい 先生が怖い

※中文的表現都使用動詞,但日文以形容詞表現,所以只有表示現象 主語的「が」,不會有動作的受詞「を」

③表示能、會、理解、需要等動作屬性的主体(非行為者)

例: 英語が分かる 運転ができる 日本語が話せる お金が要る

業如果要説出具有該屬性的「行為者」時,助詞用「に」

例: 君に私の気持ちが分かるか。

私に一人でこの仕事ができない。

子供には親の愛が要る。

④受某行為者處置後的状態主体(事物)

例:私が切符を買った。→ 切符が買ってある。

学生が本に名前を書いた。→ 本に名前が書いてある。

「を」的用法與問題點

を: ①行為者的動作直接作用或影響的對象

例:先生が文法を教える 学生が本を買う 彼が小説を書く

②表示移動、穿越的空間

_

例:道を歩く 公園を散歩する 廊下を走る 角を曲がる

③表示離開的空間



例:電車を降りる 会社を休む 家を出る 東京駅を発つ

学校を卒業する

表動作直接作用的對象的「を」與移動空間的「を」邏輯關係不同

証明: 猫が魚を食べた。 →動作直接作用的對象

- → 魚が猫に食べられた。 → 可改成被動形

猫が台所を出た。

- →離開的空間
- →台所が猫に出られた。(×) →不可改成被動

私が公園を散歩した。 →移動的空間

- →公園が私に散歩された。(×) →不可改成被動